



星槎スポーツ新聞

第23号★2018年6月11日(月)

星槎グループ セイスポ編集部発行 神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

SEISA



星槎グループ 宮澤会長(左)とMOCミョー・ライン事務局長(右)

「アジアのラストフロンティア」と言われるミャンマー連邦共和国。人口5,141万人、国土は日本の約1.8倍あるアジアの大国だ。東南アジアのインドシナ半島西部に位置し、ラオス、タイ、中国、インド、バングラデシュに囲まれている。

独立した1948年から1989年まではビルマと呼ばれ、日本では『ビルマの豎琴』という小説や映画の舞台としても有名である。また、1991年にノーベル平和賞を受賞したアウン・サン・スーチー氏の国としてもおなじみだ。民主化を実現し、

# ミャンマーオリンピック委員会と東京五輪事前キャンプ協定を締結



事前キャンプ協定調印式にて(左から箱根町 勝保副町長、星槎グループ 宮澤会長、MOCミョー・ライン事務局長、神奈川県 黒岩知事、大磯町 中崎町長、小田原市 加部副市長)

現在も著しい経済成長を続けており国内外から注目を浴びているが、その一方、大きな社会変動の中で様々な課題を抱えている。星槎グループと世界子ども財団は、2012年から医療、教育の分野でミャンマーへの支援を開始した。学校を起点とする保健衛生向上のためのスクールヘルスプログラムや、白内障治療の支援

を実施し、救急医療、巡回医療のための救急車2台を寄付するなど、活動を続けてきた。これまでにミャンマーの高校生や大学生の日本での研修留学プログラム等も行っている。また、ミャンマーの首都ネピドーにあるサマタウン孤児院を継続的に支援し、孤児院の関係者を日本に招き、日本の児童養護施設等の施設運営について学ぶプログラム等

も行ってきた。そして昨年2017年からは、エリトリアやブータンに続き、ミャンマーでもスポーツを通じた青少年育成プログラムを本格的に開始。2017年4月にはミャンマーオリンピック委員会(MOC)と「Myanmar-Japan Sports Collaboration」の協定(Letter of Agreement)を結んだ。同協定にもつき、MO

Cから2017年8月にマレーシアで開催されたSEA Games(東南アジア競技大会)に向けたミャンマー代表チーム支援の要請を受け、約5ヶ月にわたり、同国陸上競技代表チームに中長距離の日本人コーチを派遣。さらに2017年7月には星槎道都大学で1ヶ月にわたり、同国の柔道代表チームの強化合宿を受け入れた。ミャンマーと比べ格段に涼しい北海道の気候のもと、星槎道都大学の柔道部との充実した合同練習にはげんだ選手たちは、SEA Gamesでも活躍を見せ、女子選手のE・E・アウン選手が78kg級で見事銀メダルを獲得した。

プロジェクトをさらに進めていくため、2018年4月22日から27日にかけて、MOC事務局長のミョー・ライン氏をはじめ4名を星槎グループと世界子ども財団が日本に招き、視察と協議を実施。星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、小田原市の城山陸上競技場といった神奈川県内の各施設を訪問した。MOC一行は各施設を非常に高く評価し、2020年に向けた協働についても、様々な観点から協議を行うことができた。

また東京都の味の素ナショナルトレーニングセンターの視察、日本オリンピック委員会(日本奥委会)の竹田恒和会長への表敬訪問等も実施した。そして2018年4月24日、神奈川県庁にて、東京2020オリンピックパラリンピック競技大会に向けての事前キャンプに関する協定を、MOC、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、そして星槎グループの6者で締結した。県内での事前キャンプ実施決定は9ヶ国10件目となり、そのうち3ヶ国(エリトリア、ブータン、ミャンマー)を星槎グループと協同行った。

本協定にもつき、星槎グループと世界子ども財団では近日中にも再度首都ネピドーを訪問し、今後のアスリート支援、スポーツ留学生受け入れ等について協議を行う予定だ。

エリトリアやブータンと同じく、ミャンマーへの支援、交流のプロジェクトも、2020年だけが目標ではない。東京オリンピック・パラリンピック大会を一つのきっかけとして、2024年、2028年、そしてさらに未来へと続く活動を続けていく。スポーツを通じてミャンマーの未来を担う青少年育成に寄与し、更にそのことがミャンマー、日本両国の若者たちの絆を深め、両国の友好関係の発展につながっていくことが、私たちの願いだ。



星槎箱根キャンパスを視察

## 星槎道都大学柔道部高田大樹の快挙



4月29日、昭和の日。地下鉄九段下を出ると、初夏を思わせる晴天が広がっていた。ふと、見上げると日本武道館の屋根の金色のタマネギが、大会の開催を祝うかのように、キラキラと輝いていた。

平成30年全国日本柔道選手権大会、北海道代表として、星槎道都大学経営学科4年の高田大樹が出場した。

開会式は、出場全選手が一入ひとり紹介された。4番目に「北海道代表、高田大樹。星槎道都大学」と名前を読み上げられると、臆することなく、堂々と畳の上にあがった。

この大会は、いわゆる「無差別級」の大会。真の柔道日本一を決める大会といっても過言ではない。高校生も出場でき、過去には、山下泰裕さんや井上康生さんといった、オリンピックゴールドメダリストも出た。

2回戦は大阪府警の西尾徹選手。どうも警察と縁があるのか。西尾選手は、今年の三月、当時天理大学の学生として出場した「平成30年近畿柔道選手権」で優勝している。試合時間も折り返しを過ぎた。だが、初戦を見た限りでは、「あまり調子が出てないな」と印象だった。試合開始前、屈伸運動を繰り返す王子谷選手に對して、じっと畳を見つめる高田。対照的な二人だったが、「始め」の聲がかかると、王子谷選手の腕力が高田を圧倒。左腕でがっしりと柔道着をつかみ、優位に試合を進める。実は、高田は西尾選手との試合中に左中指を脱臼するというアクシデントも災いし、王子谷選手のペースが続いた。試合時間も折り返しを過ぎた。だが、初戦を見た限りでは、「あまり調子が出てないな」と印象だった。試合開始前、屈伸運動を繰り返す王子谷選手に對して、じっと畳を見つめる高田。対照的な二人だったが、「始め」の聲がかかると、王子谷選手の腕力が高田を圧倒。左腕でがっしりと柔道着をつかみ、優位に試合を進める。実は、高田は西尾選手との試合中に左中指を脱臼するというアクシデントも災いし、王子谷選手のペースが続いた。

選手権「で優勝している。先に2回の指導を受け、後がなくなった高田に、起死回生の一発、豪快な大腰が飛び出した。その見事な大技が決まった瞬間、武道館がどよめいた。ベスト16に進み、相手は旭化成の王子谷剛志選手。昨年度の世界柔道選手権のシルバーメダリスト

だが、初戦を見た限りでは、「あまり調子が出てないな」と印象だった。試合開始前、屈伸運動を繰り返す王子谷選手に對して、じっと畳を見つめる高田。対照的な二人だったが、「始め」の聲がかかると、王子谷選手の腕力が高田を圧倒。左腕でがっしりと柔道着をつかみ、優位に試合を進める。実は、高田は西尾選手との試合中に左中指を脱臼するというアクシデントも災いし、王子谷選手のペースが続いた。

選手権「で優勝している。先に2回の指導を受け、後がなくなった高田に、起死回生の一発、豪快な大腰が飛び出した。その見事な大技が決まった瞬間、武道館がどよめいた。ベスト16に進み、相手は旭化成の王子谷剛志選手。昨年度の世界柔道選手権のシルバーメダリスト

大変残念ではあるが、全国ベスト16という結果は立派であり、これを活かして、6月の「全日本学生柔道優勝大会」での優勝を目指してほしい。

見事な大腰を決める 写真提供:柔道サイトeJudo

# 未来に向けて スポーツを超えて

オリンピックはスポーツの祭典である。4年に一度開催される世界的なスポーツの祭典であり、スポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的とし、夏季大会と冬季大会が開かれている。

2012年にはロンドンで記念すべき第30回オリンピック競技大会が開催され、世界204の国・

地域から選手が参加し26競技302種目が実施された。パラリンピックは、障がいのあるトップアスリートが出場できるスポーツの祭典である。4年に一度、オリンピック競技大会の終了後に同じ場所で開催されている。2012年の第14回パラリンピック競技大会(英国ロンドン)は20競技で行われ、史上最多となる

164の国と地域から約4300人が参加した。パラリンピックに出場するには国際パラリンピック委員会(IPC)の定める厳しい選考基準をクリアしなければならない。回を重ねるごとに選手層が増し、大会レベルが高くなってきている。前々回のアテネ大会では448の大会記録と304の世界記録が更新された。

パラリンピックの起源は1948年、医師ルードウィヒ・グットマン博士の提唱により、ロンドン郊外のストーク・マンドンビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会である。第2次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちのリハビリの一環として行われた。この大会は回を重ね、1952年に国際大会になった。1988年のソウル大会

よりオリンピックの後に同じ場所で開催されるようになった。出場者も「車いす使用者」から対象が広がりParalympic(並行)＋Olympic(オリンピック)という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められた。現在ではアスリートによる競技スポーツへと発展している。

2000年にシドニーで開催された第11回パラリンピック競技大会では、国際オリンピック委員会(IOC)とIPCが「オリンピック開催国は、オリンピック終了後にパラリンピックを開催する」などの基本事項に合意し、双方の協力関係を深めている。こうしてパラリンピックは、「もう一つのオリンピック」と呼ばれるにふさわしい、世界最高峰の障がい者スポーツ大会へと、更なる発展を続けている。

昨年9月、ブータンパラリンピック委員会設置の承認がされた。ブータン王国は2020年東京パラリンピック競技大会参加に向けて準備を進めている。現在、アーチェリー1名とライフル射撃1名の選手発掘に成功し、2選手は日々其々の競技連盟下でトレーニングを受けている。本年10月にはアジアパラリンピック委員会(APCC)と星槎グループ並びに世界でも財団のサポートを受けて、インドネシアのジャカルタで行われるアジアパラ競技大会の参加を目指している。アジアパラ競技大会は、10月6〜13日に8月に開催されるアジア大会開会後、同じ施設を使用して実施される。

# 全国初! 近代五種部 始動!



射撃練習をする有路萌

全国初の部活、「近代五種部」が川口キャンパスにて本格的に始動した。元オリンピック選手(ソウル)であり、代表監督(ロンドン)である才藤浩(コーチ指導の下、2年生の有路萌がマンツーマンで指導を受けている。

近代五種の競技人口は全国で30名程度のため、オリンピック出場に最も近い競技である。有路は今年4月、ポルトガルで行われた世界選手権(U-19)に出場したが「フェンシングで勝てなかった」と悔しそうに振り返っていた。今後は、苦手のフェンシングを強化していき、「どんどん上を目指したい」と語っている。

た・と悔しそうに振り返っていた。今後は、苦手のフェンシングを強化していき、「どんどん上を目指したい」と語っている。ちなみに、近代五種の競技は、

- ① フェンシング
  - ② 水泳
  - ③ 馬術
  - ④ ランニング
  - ⑤ 射撃
- となる。フェンシングと射撃は、川口キャンパス内で練習。ランニングは市内を流れる荒川の堤防を利用して。馬術と水泳については、校外の施設で練習を行っている。

近代五種部については多くのメディアに取り上げられており、今後、全国各地より多くの生徒が入学・入部してくることが予想される。また、川口キャンパスには、競技力の向上を目指す部活動の他、スポーツアスリートコース必修のプログラム(※スポーツプログラム)がある。このプログラム

を通してアスリートとしての必要な知識、語学力の他、マスキミ対応力、モラル等を身につけることができる。「部活」と「スポーツプログラム」の両面でオリンピックを目指す選手をバックアップしている。まずは2020年の東京オリンピック出場を目指したい。

本年度より新たに、トップアスリート専攻アーチェリー部が創部された。本年度はブータンからの留学生2名がオリンピック出場を目指し、日々練習に取り組んでいる。二人とも非常にモチベーションが高く、二人の意思が練習や生活の中にも表れている。

スポーツにおいて、モチベーションの維持は非常に重要である。モチベーションを高く、二人の意思が練習や生活の中にも表れている。

この自主性を持たせ、積極的に活動できる選手を育成するためには、選手自身が自分で練習メニューや、目標などを考えることができるようになる事が重要である。もちろん、知識も何もない選手に、自主性を持たせようとするのは難しい。部活動は崩壊してしまう。

だから最初は、選手の考え方の引き出しを増やすためにも、沢山の事を伝えていき、練習メニューも根拠を示し指導していく。

しかし、いつまでも監督が手取り足取り指導しては、選手は成長しない。むしろ与えられたことをやるだけで、考えない人間になってしまう。そうならないために

# アーチェリー部 始動!

平成30年4月1日より、星槎国際湘南アーチェリー部監督に就任いたしました、茂田佳裕です。どうぞよろしくお願致します。

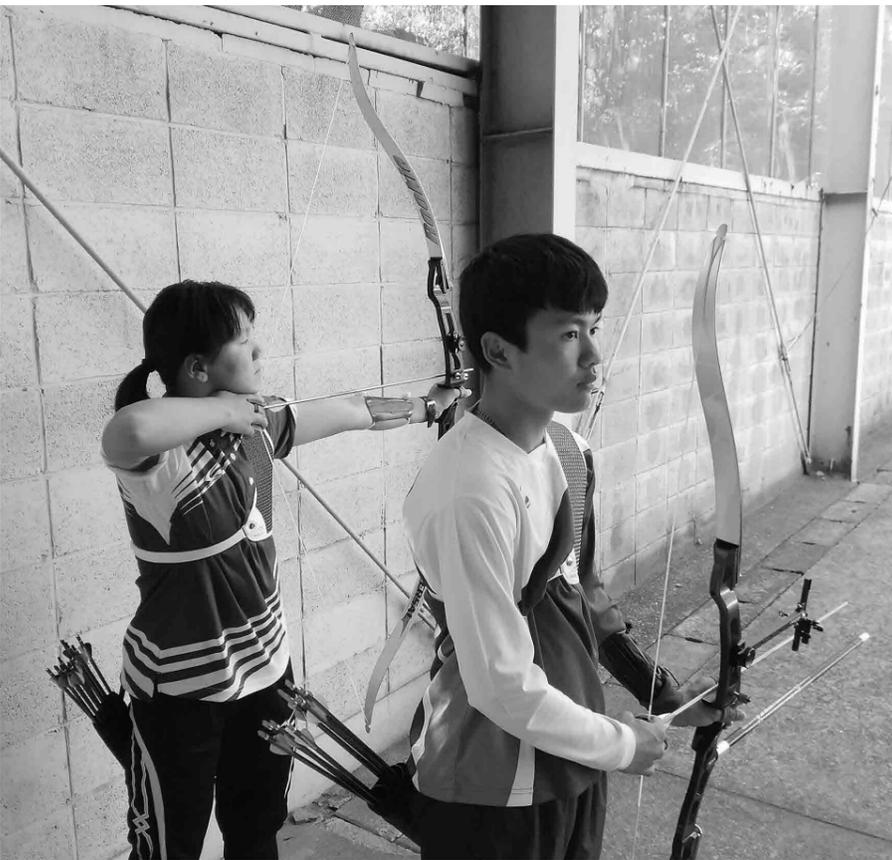
本年度より新たに、トップアスリート専攻アーチェリー部が創部された。本年度はブータンからの留学生2名がオリンピック出場を目指し、日々練習に取り組んでいる。二人とも非常にモチベーションが高く、二人の意思が練習や生活の中にも表れている。

そして、選手に自主性を持たせ、積極的に活動できる選手を育成するためには、選手自身が自分で練習メニューや、目標などを考えることができるようになる事が重要である。もちろん、知識も何もない選手に、自主性を持たせようとするのは難しい。部活動は崩壊してしまう。

だから最初は、選手の考え方の引き出しを増やすためにも、沢山の事を伝えていき、練習メニューも根拠を示し指導していく。

しかし、いつまでも監督が手取り足取り指導しては、選手は成長しない。むしろ与えられたことをやるだけで、考えない人間になってしまう。そうならないために

そんならならないために



練習にはげむ留学生

も、徐々に指導や練習を、選手の意見を聞きながら組み立てる。そして将来、選手が根拠を示したうえで、練習の提案が監督にできるように。そうしたら、アーチェリー部も強豪校へと成長していることだろう。

試合になったら誰も助けてはくれない。自分で戦っていかねばならない。シューティングラインに立つたら最大の敵は己の心である。

そして、高校卒業後は今よりも高い壁がたくさん待ち構えている。そんな壁に当たった時に、星槎での経験や知識を活かし、自分で考えてその壁を乗り越えていってほしい。そして、星槎国際高等学校

校の生徒として、星槎のアーチェリー部の選手として、自覚と責任を常に意識させ、礼儀礼節を徹底した指導も行っていく。「アーチェリー界に星槎の風を起す」をスローガンに日々の練習に励んでいく。皆さんご声援のほどよろしくお願致します。

(トップアスリート専攻アーチェリー部 監督 茂田佳裕)



ゴールを狙う 生井龍大

# 男子バスケットボール専攻 神奈川県関東大会予選

男子バスケットボール専攻が星槎国際湘南の専攻として活動を始めて1年が経った。神奈川県関東大会予選、初戦の相手は、神奈川県でも強豪の湘南工大付属高等学校だ。湘南工大付属のスピードあるバスケットに、こちらは去年から強化してきたゾーンプレスディフェンスで対抗した。とにかく前線からプレッシャーをかけ、追いかけてまわす特徴あるプレスで、第1ピリオドは22-12と10点ビハインドで終えた。第2ピリオドでは、湘南工大付属の選手が、こちらのゾーンに対して、シフトコーナーを中心にオフエンス展開を行い、パス&ランの空間に走りこむバスケットを行い、いくつものシュートチャンスを与えてしまったが、このオフエンスのファーストチャンスは完全に抑えることができた。

しかし、ボールがゴールにあたり、リバウンドを多く取られてしまい、セカンドチャンスに対応することができず、46-22で前半を折り返した。ランニングスコア上では、3ポイントシュートでの得点はなく、「走りあいの試合」だと、ハーファタイムに選手たちに伝えた。

後半に入り、星槎国際湘南の選手にアクシデント。

スタートメンバーを1名欠きながらも、選手たちは最後まで走り抜いたが、試合終了のブザーが鳴る頃には、90-49と無念の1回戦敗退となった。

今回の大会を通して、ディフェンスに関して、去年から強化してきたこともあり、かなり完成度の高い守り方ができたと感じているが、オフエンスの無駄なドリブルや、ルーズボールに對しての甘さが課題であることを再認識した。

県総体まで時間はないが、より多くのチームと実戦練習を行い、調整していく。

## スポーツと心理学 色彩が与える影響

### オピニオン

星槎国際大 副センター長 東田華奈

前回、「赤色と青色どちらの色をユニフォームに選択すれば勝率が上がるのか」というところで締めくくっていた。

それに関して、次のような結果が発表されている。2005年の科学誌Natureに掲載された論文に「赤は競技における選手のパフォーマンスを高める」というものがある。

この論文では、2004年アテネオリンピックの格闘技種目(ボクシング、テコンドー、レスリング)のユニフォームの色(選手は試合前に赤と青のユニ

フォームに無作為に割り当てられる)と勝敗の関係を調査し、赤のユニフォームを着た選手が青のユニフォームを着た選手と比較して、勝率が高いことが報告されている。

もちろん、その時の選手の体調や調子、試合環境などによっても左右されるものである。一概に「赤のユニフォームを身につければ必ず勝利することができる」というわけではない。そのため、その後のオリンピック(ロンドン以降)では必ずしも赤が優位ではないという結果も出てきているのである。色によるスポーツの優位性は、それまでの経緯が複雑で立証するのが難しい。気温などの環境、選手のコンディション、毎回同じパ

フォーマンスができるか・・・など複雑なため。ただ、少なからず色彩が与える影響というものがある、というのがこの論文の報告である。

私自身も幼い頃から大学卒業まで水泳に取り組んでおり、道具やジャージなど様々なところで色による意識付けなどをしてきた。今思えば無意識に好きな色を選んでいたり、結果に繋がったのではないかと考えている。練習道具でもあり、試合のユニフォームでもあ

り残すことができた。これまでは赤色と青色の効果しか触れてこなかったが、それ以外についても、活用してもらいたい。例えば、オレンジ色は、恐怖やプレッシャーによる心の不安や抑圧を取り除く効果がある。心が乱れている時や不安で押しつぶされそうなのは、オレンジ色の光を見れば、心身のバランスを整えることができる。

緑色は暖色でも寒色でもない「中間色」でもっとも刺激の少ない緑色である。刺激の少ない緑色は、見る人に安心感を与え、落ち着きと安らぎをもたらす効果がある。このオレンジ色と緑色だけでも、同じ効果があるように見えて、違う作用が

## ニュース速報

### 関東高等学校 バレーボール大会 神奈川県予選会ベスト16

5月12日、13日に関東高等学校バレーボール大会神奈川県予選会が開催された。インターハイに向けて現時点での関東の実力校を巡る大会として開催される大会です。予選会で上位8チームに入れば関東大会出場となる。星槎国際湘南バレーボール専攻は第1試合は県立七里ガ浜高等学校戦。25-9、25-11で勝利。第2試合は県立弥栄高等学校戦。25-4、25-5で勝利したものの、第3試合の相手は、今回の優勝校私立三浦学苑高等学校だった。成績は17-25、22-25で敗戦。目標としていた関東大会出場は次回へ持ち越しとなった。

### 神奈川県高等学校 総合体育大会競技大会兼 全国高校総体県予選会 支部予選

5月13日に高校総体バスケットボール支部予選が開催された。創部2年目の星槎国際湘南のバスケットボール専攻は初戦を勝利で飾り、幸先の良いスタートを切った。初戦は私立慶応義塾湘南藤沢高等部と対戦。97-61で勝利を収めた。

### ワンネーションカップ 2018

5月21日から26日まで、平塚市、茅ヶ崎市と大磯町で15歳以下の国際的なサッカー大会が開かれた。今大会には、日本、ドイツ、トルコ、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、ロシア、中国の8ヶ国が参加した。星槎湘南大磯キャンパスなどで予選が行われた。詳細は次号で。

### 星槎 教師 列伝

### 多くの人にラククロスを知ってもらいたい！ 星槎中学高等学校 蘭 隆太



「ラククロス」というスポーツをあまり知らない人も多いと思う。ラククロスはいわゆるカレッジスポーツで、大学から始める人が大多数を占めている。実際に競技をやっている感覚からいうと、95%以上が大学から始める。これは中学・高校の部活動などでラククロスを行う環境が整っていないのが大きな理由だ。

その一方、ほとんどの人が大学から始めるというところは、全員スタートラインが同じということでもある。つまり、自分の努力次第で、大学から競技を始めると日本代表になれる可能性があるが、それがラククロスをやると、その最大の魅力だと思つた。私自身もラククロスを始め、18歳の時、それまでは小学校から高校まで

バスケットボールをやっていた。バスケットボールと動きが似ていたため、今までの経験が活かせるのではないかと思い始めた。

大学4年生の時、2011 APLUアジアパシフィック選手権大会男子U22日本代表に選ばれた。日本の丸を背負い、各国の代表チームと対戦。順調に勝ち進み、決勝戦はオーストラリア代表チームとの対戦。接戦の末に10-9で勝利し優勝。表彰式で国歌斉唱をした時「日本人として、日本のために頑張れたんだな」と、とても気持ちが高まり、一生忘れられない貴重な経験をした。

優勝を勝ちとるために日々厳しい練習に耐え、おかげで忍耐力がついてきた。また、プレー中はオフサイドや選手によってクロスボールをキャッチする道具(の長さ)が様々なところ、自由に選手が交代できるなど戦術によって、勝敗がかなり左右される。その中で、いろいろな戦術を考えたことで発想力が高まった。

現在、仕事で様々な企画等を提案する時に、その時の柔軟な発想が活かされていると実感する。ラククロスは、地上最速の格闘球技と言われるくらい激しいスポーツなので、今後更に人気が出ると思う。日本では、このようなスポーツに火が付くことは少ないと思うが、見てもらっても楽しいスポーツなので期待できると思う。

# セイスポ

# 神奈川県予選 インターハイ 4年連続優勝

4月30日からインターハイ県予選が開幕した。今年のチームは「チーム力」を合言葉に昨年度優勝した新人戦や春先からの伊勢遠征や日々の練習、そして学校生活に力を注いできた。その日々の積み重ねがどれだけの積みあがっているか確認ができるインターハイ県予選。



女子サッカー決勝戦スターティングメンバー

初戦は星槎湘南スタジアムで県立伊勢原高等学校と対戦し、立ち上がりから得点を奪い勢いのり8-0で勝利。準決勝に駒を進めた。ただ、得点は奪えたものの相手のミス

が重なり得点が奪える場面や、意図していないプレーでチャンスが生まれるなど、星槎のサッカーとしてやりたかったサッカーはあまりできず、課題が多く残る試合となった。

準決勝はかめパークで横浜翠陵高等学校と対戦した。「チーム力」が試される重要な試合であった。相手の闘志あふれる前線からのプレッシャーに苦しみながらなんとか

ボールを保持し、1得点をあげるが当日は風も強く、一進一退の攻防が続いた。その中で前半は、少し弱気なプレーが前線の選手を中心に見られる試合展開となった。ここで「チーム力」が発揮され、そういった選手を後押ししなければならぬが、変化はなかった。しかし、ハーフタイムの監督の指示により改善された。後半は意識が変わったこと

と、体力的に相手が消耗したことで、相手ゴールに近づくことができ、後半に3得点を奪うことができた。しかし、一瞬の隙を突かれ、失点を許してしまった。関東大会や全国大会は気の抜けた失点は命取りになる。GKは今までそこに注力してきた練習を積んできたが、まだまだ意識を持ち続けて練習に取り組む必要があると感じられた試合

だった。結果は4-1で勝利し決勝に進出した。決勝戦は保土ヶ谷公園サッカー場で県立藤沢清流高等学校と対戦した。優勝するしか関東大会出場の切符を掴むことができない厳しいインターハイ県予選。4年連続優勝もなかった試合でもあった。藤沢清流高等学校は準決勝で湘南学院高等学校にPK戦までもつれ込む試合に競り勝ち、決勝に進出してきた。勢いに乗った藤沢清流高等学校が対戦相手となり、立ち上がりから集中して決勝戦に臨んだ。やはり、勢いがある藤沢清流高等学校。前線からプレッシャーをかけてくる相手に対して、パスを繋いで攻めるも攻めきれず、そこからカウンターでピンチになるような、一進一退の攻防が前半は続いた。

ハーフタイムにもう一度どのように試合に臨むか気持ちの面も戦術の面も確認し、後半をキックオフした。後半から徐々に星槎がボールを持つ時間が増え、相手ゴールまでいくことが増えた。ただ、相手も勝つては関東大会出場がかかっている試合でもあり、粘り強く身体を張って守備をしていた。その固い守備をなんとか掻いくり、渾身のシュートを放つと相手ゴールに

突きささった。この得点をきっかけに追加点をあげ、3-0で勝利し優勝と共に関東大会出場の切符を4年連続で手に入れることができた。



勝利後のハイタッチ

星槎のサッカーがさらに進化して、見ている人を感動させられるようにしていきたい。上位3チームが全国大会出場の切符を手に入れる。そこを目指し一戦一戦臨んでいく。



決勝戦に臨む

# 陸上専攻 2018 始動



先輩の意地

2018年インターハイに向けて、記録会に出場した。4月29日に行われた平成国際大学記録会では、インターハイ予選に向けてのレースだったので練習では得られない、レースの雰囲気、緊張感を味わえた。星槎国際湘南は1、2年生主体なので、兎に角レースを通して経験を積んでいくことが大切だ。その中で、自己ベストが出たことは、次の試合に向けて自信になったと思う。1年生は、星槎での初陣でもあった。本来の力ではないが、スタートラインに立ち星槎の代表として一歩を踏み出した。5月3日、4日で行われたインターハイ予選(西部地区)は、他校は2、3年生が出場しているが、星槎は1、2年生主体で臨んだ。上位16名が県大会に出場できる。



歴史の瞬間

1年生は、入学して学校生活に慣れるだけでも大変だと思うが、スタートラインに立てば学年も国も関係なく順位が決まり、条件も一緒だ。先輩の胸を借りるつもりで頑張ってみよう。日頃から新入生には、1年生らしい走りをしてほしいと常に練習から意識させてきた。

試合は、厳しい中での戦いだったが、1500mでは、アヌール・モハメド・アタ(2年)、園田幸之介(2年)が先陣をきって走り、アヌールは県大会出場、園田は先輩の意地で粘りの走りをしてくれて、後輩に押されてくれた。1000m・2000mに出場した粟田伊吹(1年)は、予選は通過できなかったが、初めての2000mでも1年生ながら堂々とした走りだった。今後が期待される。

5000mに出場した瀬戸大二郎(1年)と力石隆太郎(1年)が予想以上に頑張ってくれた。中学生は、3000mの練習しかしていないので、入学してすぐ5000mを試合で走る機会があまりない中で、よく頑張った。

陸上部も長距離だけでなく、トラック&フィールドでスタートしたので、参加する種目も増え、星槎の名前が沢山放送で流れた。陸上部の選手には、星槎の代表として歴史と伝統を作っていくしてほしい。

設定タイムもクリアできたので、次に繋がるレースだった。

800mに出場したアヌール・モハメド・アタ(2年)と吉村快(1年)は予選から先頭でレースを引っ張り、目立っていた。見ている他校の生徒も星槎の選手の名前を口にするほどだった。また、西部地区から1年生で県大会出場は、吉村だけとなる快挙だった。